



小規模
特認校

玉川小学校



自分たちで作った小麦でうどん作り



1・2年生の小麦の収穫



日産自動車(株)の外国籍社員が母国を紹介する授業

市内で一番児童の少ない学校
玉川小学校 けれど、
大山が一番大きく見える学校
豊かな自然と四季を感じる学校
地域に支えられている学校
体験活動がたくさんある学校
異年齢の交流が盛んな学校
英語教育が充実している学校
全クラスが少人数学級の学校
児童の早朝預かりがある学校
あいさつが響き合う学校
多くの先輩がいる伝統ある学校
小さくても、魅力いっぱい
玉川小学校に就学しませんか。



運動会の鈴割りには地域住民も参加



学校図書館には興味を引く本がいっぱい

小規模特認校

特例措置として、通学区域外からの就学を認めている学校です。

受入学年・時期 全学年・令和2年4月

申請方法 ホームページ 市HPや学務課にある申請書に記入の上、10月15日～11月13日に直接、学務課(☎225-2650)へお持ちください。後日、学校長と面談あり。



子どもが玉川小に通う関根江里さん

制度を利用し、今年娘が入学しました。学校の様子を見てみると、児童数が少ない分、子どもと先生の距離が近いと感じています。さまざまな体験活動に関わってくださる地域の方々とも密接な関係で、学校と地域の強い絆を感じます。縦割り活動も多く、一人っ子の娘には違う年齢の友達と接する良い機会です。活動を通して、高学年は自然とリーダーになる環境があると思いました。



田んぼの土をかき混ぜる5・6年生の代かき



地域の老人クラブの指導による田植え



6年生の卒業制作「せんみ風」作り



教員は一人一人を丁寧に指導



春には校地を囲むように桜が咲き誇る



深まる広がる コミュニティスクール!



学校と地域が協働して教育環境を充実させる仕組み「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)。昨年6月に全市立小・中学校への導入が完了し、子どもたちの学び力や豊かな心の育成、健やかな体づくり、安全対策など、さまざまな活動が展開されています。今回は、先進的な取り組みや学校支援ボランティアの活動を紹介します。



皆さんは、なぜコミュニティ・スクール(以下CS)が導入されているか知っていますか。現在、学校は多くの課題を抱えています。教員の長時間勤務、教える内容の増加、情報通信技術の活用、いじめ・不登校へのきめ細やかな対応。さらに、これから子どもたちが生きる社会は、情報化や少子高齢化、グローバル化の進展、雇用環境の変化など、激動の時代が待ち受けています。目の前の課題を解決し、新たな時代を豊かに生きる力を育むには、学校の努力だけでは限界があります。CSは、学校と地域がパートナーとして協働し、「社会総ぐるみ」で子どもたちを育む仕組みです。ポイントは、どんな人に育てたいのかというビジョンを学校と地域が共有すること。どの学校運営協議会でも話し合いは熱を帯び、子どもたちへの願いを分かち合いながら、教育の充実や課題の解決を目指しています。そして今、活動はさらに広がりを見せています。鍵を握るのはコーディネーターの存在。地域と学校をつないでいくこと、いくつかの学校で活躍を始めています。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)

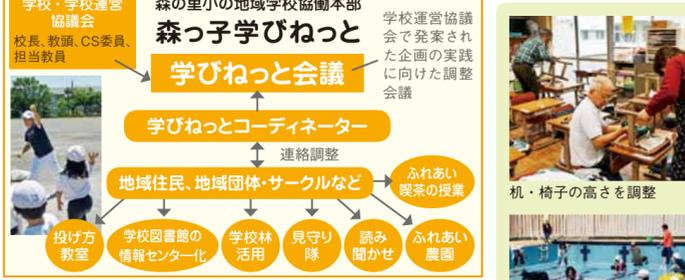


コーディネーター委員会を設置 依知南小学校
依知南小は、平成29年6月にCSを導入しました。学校や子どもたちの課題を学校運営協議会で話し合い、保護者の皆さんが体力的に協力したり、家庭学習の定着に向けた取り組みをしたり、見守りを強化したりと、幅広く活動してきました。中川洋太校長はCSの導入により、学校支援ボランティアは大幅に増え、今では教育活動に不可欠な存在になっている」と話します。しかし、ボランティアの数が増えるほど、活動日時などの連絡調整に要する教員の負担が大きいと指摘されています。

が拡大します。そこで、学校運営協議会委員やPTA本部役員の経験者、地域連携担当の教員の6人で構成する「コーディネーター委員会」を発足。学校と地域のつなぎ役としても今年度から活動を始めた。「大変なこともあるが、お世話になっている学校に恩返しができる」と話すのは、長年ボランティアとして活動してきたコーディネーターの関谷美緒さん。「私たち保護者などが関わることで実現できた授業もあり、ボランティアの存在の大きさを感ずっています。コーディネーターとして手探りの状態だが、無理せずに行きたいから取り組んでいければ」と前を向かいます。7月には、同委員会が中心となりボランティア研修講座を開催。ボランティアの必要性や心構えを学び、保護者・住民と教員がお互いに望むことについて、意見交換しました。中川校長は「コーディネーター委員会は、今までなかった新しい取り組み。生みの苦しみはあると思うが、学校と地域が本音で語り合える場をつくりながら、両者を結び付けてもらいたい」と期待を寄せます。今後は、同委員会が中心となり、ボランティアのネットワークを拡大。子どもたちを地域の大人たちの「つながり」の中で育む体制を整えます。

森っ子学びねっとを立ち上げ 森の里小学校
森の里小がCSを導入したのは昨年6月。発足して間もないものの、森の里には学校と地域が協働して活動してきた歴史があります。代表的な取り組みは、平成17年から実施している「ふれあい喫茶の授業」です。授業では、地域住民が自分の経験や知識を生かして子どもたちにさまざまなことを教えます。授業後には、講師や地域の高齢者と児童がお茶会を交わし、地域福祉推進委員会の活動の一環であることが大きな特徴です。住民のコーディネーターが森の里の歴史や昔遊びなど、各学年の授業内容に応じて地域で講師を探します。同校学校運営協議会会長でコーディネーターを務める青木信二さんは「学校と地域が一方的に支援する関係ではなく、Win-Winの関係になることが大切。ふれあい喫茶の授業では、学校は地域の方を生かした授業ができる一方で、地域側は子どもたちと交流できる」と胸を張ります。CSの導入で学校運営協議会の組織化は進んだものの、活動を実践する仕組みづくりができていません。そこで、コーディネーター

が中心となり、「森っ子学びねっと」を設立。森の里小の子どもの学びを支える、公民館を基地とした地域ぐるみの緩やかなネットワークをつくりました。コーディネーターの連絡調整により、ネットワークに加わっている住民・団体が活動を実践します。「活動を長く続ける秘訣は、地域の皆さんの主体性。子どもたちのため、学校のためだけでなく自分自身の学びや成長という目的が活動に参加する大きな原動力になっている。子どもも大人も一緒に成長することで、地域も育っていく」と力を込める青木さん。学校と地域が協働した人づくりは、学校を核とした地域づくりにもつながっています。



ボランティアで自分も成長

学校ボランティア、コーディネーターの先駆者 **渡邊 真知子さん**
約20年前に小学校での読み聞かせから学校ボランティアを始めました。現在は、NPO法人を立ち上げ、学校と地域の間に入るコーディネーターとして、住民の講師を探したり、先生の業務を補助したりする支援活動をしています。今、先生はとても忙しい時代です。その忙しささせている要因をボランティアの力で取り除けば、先生はより子どもと向き合うことができ、感じ取れるものも増えると思います。一方、子どもたちは地域の力を借りてさまざまな力を培います。その力はいつか地域に還元され、地域はさらに豊かになっていきます。ボランティアをするときは、子どもたちや他のボランティアの皆さんと触れ合い、自分自身が楽しむことが大切です。そして、先生の考えに寄り添いながらも、地域の未来を担う子どもたち何が必要か考え、学び続けていく。自分の子どもだけでなく地域の子育てに関わる活動は、きっと自身の大きな成長につながると思います。

イチオシ政策

PICK UP 1 小・中学校トイレ改修事業
児童・生徒や災害時の避難所利用者などが気持ちよく利用でき、バリアフリーに対応したトイレを整備するため、平成19年度から校内のトイレ改修を計画的に進めています。「みんなのトイレ」の設置や小便器の自動水洗浄、大便器の洋式化、床・壁の張り替えなどを実施。今年度も11小・中学校で改修を実施し、令和2年度には全小・中学校の校内のトイレ改修が完了する予定です。

PICK UP 2 小・中学校屋外AED設置事業
万が一の時にAED(自動体外式除動器)を使いやすくするため、全小・中学校にAEDの屋外専用ボックスを設置し、10月から運用を開始します。これまでは校内の職員室などで保管し、緊急時に備えていましたが、今回は新たに校外に設置。学校行事や体育の授業、部活動など、屋外で活動する児童・生徒や、休日・夜間のグラウンドの利用者の急病時にも、素早く対応できるようになります。

PICK UP 3 ブックスタート事業
本を通じて赤ちゃんや家族の触れ合いを深め、子育てに役立てるため、平成15年から取り組んでいます。中央図書館や公民館などで絵本が入ったブックスタートパックを渡し、読み聞かせの方法や年齢に応じた絵本を案内しています。今年度は、より多くの方が参加できるよう、1歳6か月児の健康診査の会場でも開催。赤ちゃんの心と言葉を育む時期をしっかりサポートしていきます。

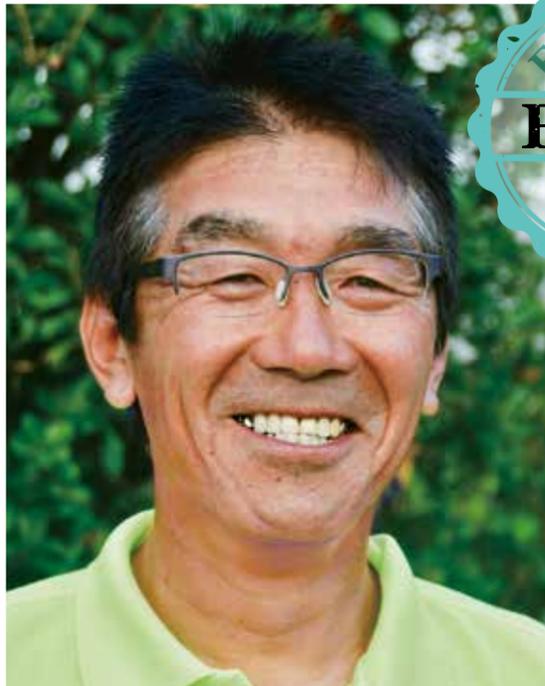
みらいの種
「厚木に本格的な博物館を」。この願いが形になった「あつぎ郷土博物館」が自然豊かな下川入にオープンし、8カ月が経ちました。予測をはるかに超えるスピードで多くの方々にお越しいただき、9月上旬には、来館者数3万人を達成する見込みです。昨年度まで寿町にあった郷土資料館は施設の老朽化が進み、さらに保管スペースが狭かったことから、取壊庫は市内に点在していました。そこで、静かな環境の中で利用者が憩いながら厚木の文化や自然に親しみ、郷土への愛着と誇りを育める博物館を目指して建設しました。企画展示室には、県央地区トップレベルの高規格な展示設備を導入、厳密な温度・湿度管理により、今まで展示できなかった貴重な作品もご覧いただけます。施設には、恐竜などの化石や厚木に伝わる郷土芸能、昔の道具、生物の標本などの基本展示のほか、学芸員が趣向を凝らして企画する特別展示、厚木の考古、歴史、民俗、自然への理解を深める講座など、見どころ、学びどころがたくさんあります。まの新たな一面を発見できる厚木初の総合博物館に、ぜひお越しください。

教育長「リム」 日 直 曾 田 高 治



子どもの健やかな成長を支える

ありさか かつゆき
厚木市立小中学校PTA連絡協議会会長 **有坂 克幸**さん(52)



5人の子を子育て中の有坂さん。相川小には2人が通学中

厚 本市立小中学校PTA連絡協議会の会長をしていただき、誠に頼まれ、4年前に役員となり、昨年度から会長を務めています。協議会は、各校のPTA活動を支援する、全36校のまとめ役です。昨年度、発足から50周年を迎え、子どもの健全育成という目標を各校と共有しながら活動しています。

子どもが通う相川小でPTA活動に携わったのは、ちょうど10年前のことです。最初は勝手が分かりませんでした。最初は子どもたちや先生との距離が、子どもたちや先生との距離が一気に縮まり、保護者同士のつながりも広がって、新しい世界が開けました。仕事をしながらの活動なので忙しさは増したものの、「子どもを楽しませるには、大人も楽しむ」をモットーに、交流イベントの開催や教育環境整備などに取り組んでいます。

PTA活動の改善も進めています。どこのPTAも同じだと思いますが、役員の手不足や会員の負担軽減は相川小でも課題です。活動の必要性を話し合いながら、組織のスリム化や会議の回数・やり方の見直しに取り組みしました。こうした活動が実り、昨年度に「優良PTA文部科学大臣表彰」を受けることができました。これからも、みんなで楽しみながら協力し合い、よりステツ

厚木市立小中学校PTA連絡協議会

児童・生徒の健全育成を目的とした、小・中学校PTAで構成される組織です。

【主な活動内容】

- 家庭教育の向上・充実に向けた各PTA活動の支援
- PTA相互の連携した活動への支援、研修活動
- 教育課題の研究、各PTA活動の発表会の開催

今年40回目を迎えたPTA活動研究大会

社会教育課 ☎225-2513



だからこそ、PTAの重要性は増えています。今は全校でコミュニケーション・スクールが導入され、保護者が学校に関わる機会がさらに増えています。もう子どもを学校に預けてお任せする時代ではありません。子どもたちの健やかな成長を先生と共に支えながら、親も学び一緒に成長していく。これがPTA活動の醍醐味だと思えます。

プアアップしていきたいと思っています。長年、活動をしていると、PTAを取り巻く環境は厳しさを増していると感じます。共働き世帯の増加や家族の形・価値観の多様化など、社会の変化に伴ってPTAの在り方は議論的になっていきます。他にも、家庭教育の向上や子どもの安全確保、スマートフォンを持つことによる問題など、私たちの前には課題は盛りだくさんです。今は先生も忙しく、学校教育も変革の時期を迎えています。



相川小PTAや住民が学校の環境を整備

おうちで給食レシピ

夏にぴったり 栄養たっぷり 夏そぼろ



今回は、夏野菜の代表格ゴーヤーを使ったレシピ。苦みが特徴ですが、豚肉や卵と一緒に味付けすれば、子どもでもおいしく食べられます。

- 材料(4人分)**
- ・豚ひき肉…100g ・ニンニク…少々 ・ショウガ…少々
 - ・ニンジン…100g ・ゴーヤー…50g ・ゆで塩…適宜
 - ・卵…2個 ・サラダ油…適宜
- 【調味料】** ・酒…小さじ1 ・塩…少々 ・砂糖…小さじ1
- ・みりん…大さじ1/2 ・みそ…小さじ2
- 作り方**
- ①ゴーヤーは縦半分に切り、中の種とワタを除いて薄切りにし、さっと塩ゆでする。
 - ②ニンニク、ショウガはみじん切り、ニンジンは千切りにする。
 - ③卵はよく溶きほぐしてから、フライパンでいり卵にし、いったん皿に取り出しておく。
 - ④フライパンにサラダ油を入れ、ニンニク、ショウガを香りが出るまで炒める。その後、豚ひき肉を加えて炒め、色が変わったらニンジン、ゴーヤーも加えて炒める。
 - ⑤調味料を加えて混ぜ合わせ、③のいり卵を加えて全体に味をなじませる。

ひと口メモ

ゴーヤーの苦みを和らげるには、塩もみをして5分程おき、水分をしぼってからゆでると効果的。

人気の給食レシピを市ホームページに掲載 [厚木市 給食レシピ](#) 検索

数字で見るあつぎの教育 36カ所

江戸時代の厚木市域にあった村の数です。



厚木市域周辺の村の絵図 『四拾八ヶ村略絵図』明治2~4年(1869~71年)

平成の市町村合併前の相模原市域が16カ村であったのに対し、倍以上の村がありました。中でも、相模川の渡船場があり甲州道などが通る厚木村は、交通の要所としてにぎわい、厚木市域はその後背地として栄えました。環境面では、相模川に沿った低湿地から大山に隣接した山間部まで変化に富んだ地形が広がり、住みやすい地域だったと考えられます。

相模川上流の村々からは年貢米や炭、まきなどを積み下流に送り、下流からは肥料や塩など生活物資を上流に運送したため、中継点であった厚木村は多く

【厚木市域にあった村々】

長沼・上落合・下津古久・戸田・酒井・岡田・厚木・戸室・恩名・温水・愛名・愛甲・船子・長谷・小野・岡津古久・七沢・金田・下依知・中依知・関口・山際・猿ヶ島・上依知・妻田・三田・川入・棚沢・林・及川・飯山・上古沢・下古沢・上荻野・下荻野・中荻野村

の商人が行き交っていました。にぎわう様子は、江戸時代後半に学者で画家の渡辺華山が「厚木の盛なる、都ことならず(異ならず)」と日記に書き残していることから分かります。

今も昔も交通の要所として発展する厚木市。あなたが住んでいる所は、当時の何村か調べてみるのも面白いですね。

親子のための info インフォ

防犯ブザーを効果的に使うために

子どもが巻き込まれる事件が多発しています。防犯ブザーは、いざという時に正しく使えば、身を守る有効な道具となります。使う場面などを家族で確認し、「自分の身は自分で守る」という意識を子どもに持たせましょう。

下校後の外出時も携帯する

「あぶない人」は外見では分かりません。「○○と一緒に探して」「○○の場所を教えて」などと、優しく話し掛けてくる人も要注意。学校から帰って出掛ける時も、鳴らしやすいところに身に付け、恐怖を感じたら迷わず使しましょう。



市が全児童と希望する生徒に配布

大声を出しながらすぐ逃げる

大きなブザー音に相手がひるんでいるうちに、安全な場所へ走って逃げましょう。一緒に大声も出すと周りの大人に危機感が伝わりやすくなります。日頃から普段通る道にある「かけこみポイント」を確認しておきましょう。

定期的な点検・話し合いを

電池切れや故障をしていないか定期的に点検しましょう。その際、持つ意味や使う場面について家族で話し合い、実際に鳴らしてみましょう。

逃げる時の目印に!

かけこみポイント

厚木市・厚木市教育委員会

緊急避難場所に登録された住宅・店舗などに貼られているマーク